

花のプロを目指して

園芸別科花組2年

鈴木 栄 詞

園芸別科花卉専攻は、通称「花組」と呼ばれており、今年度は2年生3名、1年生1名の計4名で活動しています。皆さんもご存じのことかもしれませんが、来年度以降、園芸別科の新生の募集は行わず、今年の1年生の修了をもって、園芸別科は廃止となってしまいます。これまで多くの先輩方が築いてきた伝統を、良い形で締めくくることができるよう、日々大切に勉学に励んでいます。

「花組」では地域の農業リーダーになることを目標に掲げ、植物の基礎的な知識から高度な生産技術まで幅広く勉強しています。現在は花壇苗の播種やポット上げ、シクラメンの葉組みなどを行っています。どの作業もできるだけ早く正確に行わなければなりません。そのため、先生や技術職員を手本とし、少しでも知識と技術レベルが近づけるよう努力しています。

様々な実習をしていると、多くの発見があります。例えば、シクラメンの鉢の下にミラーシートを敷いたことです。ミラーシートを敷くことで太陽光を乱反射させ、下を向いた葉などにも光が当たるようにすることが目的です。ミラーシートを敷くことは、教科書や栽培手順書では、当たり前のことかもしれませんが、実際にその原理や意味を理解し、実習を行うことで、自分の経験として、植物の知識や生産技術が身についていくのを実感しています。

また、実習や研究の他に、月曜日と水曜日の1000属ハウスの灌水も担当しています。1000属ハウスとは、1000属検定の実物試験用の植物を管理しているハウスのことです。1000属ハウスには、様々な植物があるため、植物の特徴やその日の天候を考慮し、灌水しなければなりません。1年生の頃は適切な灌水量が分からず、何度も失敗してしまいましたが、花卉園芸学研究グループの先輩方からアドバイスを頂き、少しずつその植物に合った灌水が出来るようになってきました。一鉢ずつ丁寧に向き合い灌水をするので、時間は掛かっていますが、とても大切な作業なので気を抜かずに行っています。もちろん、灌水を行いながら、ハウス内の植物の名前を覚えることも重要なことの一つです。「花組」では別科修了までに1000属検定C級に合格することが目標になっています。C級は花卉業界で働くために、必要最低限のレ

ベルとされているからです。覚えることは苦手ですが、実習後など、できるだけ時間を見つけては、ハウスで実物を見るように心がけています。引き続き、勉強を重ねて、卒業までにC級を合格できるようにしたいです。

11月には松戸キャンパスで戸定祭（大学祭）があります。OB・OGの皆様から頂いた植物や、私たちが生産した植物を販売します。今年は人数が少ないので花卉園芸学研究グループの先輩たちと共同で出店します。実際にお客様とコミュニケーションをとって、販売をする機会は今まで多くなかったため、価格設定や植物の管理方法の説明が適切にできるか、不安です。しかし、毎年花組のOB・OGから先輩たちの作られたお花の提供のご支援もあるため、お客様に適切な価格で、良いお買い物をしてもらえるように頑張りたいです。

そして、戸定祭が終わると、最後の総まとめとして、2年生は修了論文発表が待っています。現在も修了論文発表に向けて、実験に取り組んでいます。想像したような結果が得られることばかりではありません。そのため、精一杯植物と向き合い、より良い論文になるよう努力したいと思います。

「花組」での2年間は本当にあつという間ですが、楽しいことも辛いこともありました。それらの経験は私の財産です。花組に来て渡辺先生をはじめ、多くの方に支えられここまで来ることができました。感謝しています。また、本当にありがとうございました。



花組の仲間と（右端が著者、左側3名が別科生）